

2022年度夏季手当に対するジェイアールバス関東労組本部見解 ～組合員と家族が安心して“生き生き”と働き“もの言える企業風土”を取り戻すために～

「労働条件低下にもデッドラインがある。会社経営陣はそのことを認識しているのか。今回の夏季手当回答、昨今の経営陣の姿勢に社員・組合員・家族は心が完全に離れている」これは先日開催した団体交渉で、職場で必死に労働条件向上に向けて、労働組合に責任を持って団体交渉に出席する本部役員が会社に訴えた声です。

ジェイアールバス関東労働組合は6月24日、申10号「2022年度夏季手当に関する申し入れ」について席上妥結しました。6月16日に開催した申10号の第三回目交渉で示された夏季手当の会社回答は「基準内賃金の1.4ヶ月分」「契約社員A1.1ヶ月」「契約社員及び臨時雇用員は実績に基づき個別に定めた額」という驚くべき回答でした。

今、多くの組合員と家族から本部に「生活給の一部である夏季手当」の低額回答に強い憤りと嘆き、そして将来への不安の声が寄せられています。会社発足以来の赤字決算である一昨年度から大幅改善した昨年度は、営業損失で28億円の赤字決算でした。しかし対前年で約20億円以上の業績を回復した現実はコロナ禍による強い規制があるなかで並大抵の努力では実現できません。職場からは「コロナ禍以前から、急変した暗く風通しの悪い職場風土を何とかよくして、少しでも労働条件を改善させるために努力してきたがもう限界です」という切実な声が表示するように退職者が後を絶ちません。また、全体で約1,000名いた社員（契約社員も含み）も現在は800名を下回りました。これは定年退職者も含まれますが残念ながら多くの仲間たちが志半ばで会社を去ってしまいました。

私たちは、この現実をどのように受け止めてこれからバス関東労組運動を前進させ、健全なジェイアールバス関東を確立させられるかが問われています。日本バス協会が警鐘する「戦後最大の危機」と言われるバス業界のなかで、会社発足から今日まで高速バス事業に傾注しすぎたジェイアールバス関東は、地域の一般路線を大切にする私鉄系バス会社と比較して大きな差をつけられています。時代に合わせた柔軟なバス事業や多角的な経営のあり方を労働組合として提言し、実現していくことは重要です。しかし、現在のジェイアールバス関東の最大の欠点は「全社的な職場（本社も含めた）の風通しの悪さ」です。これまで経営幹部から「内部議論からの脱却」という言葉が語られてきました。しかし、いつまでも内部議論から脱却できないのは一部経営幹部に他なりません。「今の会社に意見をすると人事で報復される。家族から『お父さん会社に余計なことは言わないで。言えば家族が離れ離れになるからやめて』」これは組合員の家族から寄せられた言葉です。このように、ジェイアールバス関東では組合員の強制転勤や職種配置転換、一部経営幹部による労働組合に対する異常なまでの嫌悪感からなる差別人事が横行し「おかしいと思っても経営トップにものが言えない独善的な体制」が継続しました。これは組合員のみならず多くの社員からバス関東労組へ寄せられる真実の声です。

～健全なジェイアールバス関東を“私たちの手で”全組合員でバス関東労組への結集を呼びかけよう！～

「安全は輸送業務の最大使命である」これはジェイアールバス関東の安全綱領です。私たちはそれを最大の価値基軸にしてエッセンシャルワーカーとして輸送サービス業を完遂しなくてはなりません。日本政府が3月22日に蔓延防止等重点措置を解除して以降、徐々にご利用されるお客様は増加しています。その反面、職場は退職者増による乗務員不足が顕著に表れています。安全輸送を最大の使命にした私たちの輸送に法令違反や過度な連続勤務等が発生してはなりません。私たちは企業の神経としてそのチェック機能を最大限に発揮して、これからの夏季輸送に挑みます。一方でこれ以上、職場の風通しが悪化し、理不尽で陰湿な強制転勤や職種配置転換が行われた場合は全組合員と議論し、団体交渉でその経営姿勢を正すことを求め、それでも解決しない場合は第三者機関の活用を検討することを明らかにします。労働組合が、企業権力に屈せず「もの言える企業風土を取り戻す」ためにたたかうことは当然です。そして、その現状を組合員や家族の皆さんや、連帯する仲間たちに向けて発信します。それが労働組合の最低限の責務だからです。

夏季手当交渉で会社が示した「国際情勢に伴う物価上昇等の現在の社会情勢を勘案して判断した」という考え方による結果は、組合員・家族の生活実態からかけ離れています。本部はこれからも賃金・労働条件向上のたたかいに挑みます。

私たちは「夏季手当1.4カ月回答」や昨年末の「期末手当1.2カ月回答」を忘れません。また、2021年春における「定期昇給4分の2回答」を絶対に忘れません。そして、「著しい労働条件の低下」と「風通しの悪化した企業風土」によって多くの仲間が会社を去った事実と、今も不条理な状況に置かれる組合員と家族の立場に立って、定年まで“生き生きと”働き続け、全職場で“もの言える企業風土”を私たちの手に取り戻すため、バス関東労組はたたかい続けます。

最後に、厳しい2022年度夏季手当交渉を支えてくれた組合員と家族の皆さんに感謝を申し上げます。そして、ジェイアールバス関東労組への結集を強く呼びかけ2022年度夏季手当に対する見解とします。

2022年6月27日
ジェイアールバス関東労働組合
執行委員会